

## 音楽夜話3 (独奏曲編)

35年繊維(修士) 穴原明司

## 1. はじめに

これまで管弦楽、室内楽の分野の音楽を歴史的な流れに沿って紹介してきた。シリーズ3回目として単一楽器による音楽を紹介する。この分野では、何といたっても楽器の王者ピアノが主流になる。ピアノは完璧な機能を持ち、多くの名曲が残されている。しかし、他の弦楽器、管楽器にも優れた作品があり、殊にバッハの無伴奏曲を紹介したい。

## 2. 鍵盤楽器 (オルガン、チェンバロ、ピアノフォルテ、ピアノ)

- ・オルガン ★J.S.バッハ：トッカータとフーガは、堂々たる風格を備えた名曲。
- ・チェンバロ (イタリヤ)、ハープシコード (イギリス)、クラブサン (フランス) と各地名称が異なる。

★J.デュフリ：三美紳 (チェンバロ) は代表的な優雅な作品。

## ・ピアノフォルテ

☆ジュスティニーニ：チェンバロ・デ・ピアノ・エ・フォルテのためのソナタ集 Op.1 で、音を紹介。

★J.S.バッハ：平均律クラヴィア曲集 (「程よく調律されたクラヴィアのための曲集」) 2巻

この曲は上記括弧内の題名の通り、現在の平均律ではなく快適音律で作曲されている。

ピタゴラス音律→純正律→中全音律→快適音律 ⇔ 平均律

★バッハ「グノー」；「アヴェマリア」(第1巻の第1曲を伴奏にしてメロディをつけた)

☆W.A.モーツァルト：ソナタ ハ長調 K.545

★ベートーヴェン：幻想曲風ソナタ 第14番「月光」は、第1楽章にくるべきソナタ形式の楽章を省略するなど、大胆な試みをしている。その他、32曲の壮麗なピアノソナタ (「悲愴」「熱情」「告别」「ルマクラヴィア」) により、究極のレベルに到達した。

★ベートーヴェン：「エリーゼのために」(死後60年に出版されている)

ベートーヴェン以後、ピアノ曲の分野では、ソナタの作曲が顕著に減少し、プロのみが演奏可能な難曲と、誰でもが楽しめる小曲とに二極分化していった。

★リスト (1811-1886)；パガニーニによる大練習曲集より第3曲「ラ・カンパネラ」嬰ト短調

★ドビュッシー：ベルガマスク組曲より「月の光」は、新天地を切り開いた。

★ムジグスキー：展覧会の絵は、ラヴェルの編曲により華麗な管弦楽の世界に飛翔した。

## 3. ギター独奏曲 (6本の弦を爪ではじく)

☆タレガ：「アルハンブラ宮殿の思い出」

## 4. ヴァイオリン独奏曲 (四本の弦を弓でこするか指ではじく)

★J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ 全6曲 BWV1001~1006

パルティータ第2番の5楽章 (「シャコンヌ」) は、ヴァイオリン音楽の最高峰。

その後、パガニーニ、イザイなども超絶技巧の無伴奏ヴァイオリン曲を作曲している。

## 5. セロ独奏曲 (四本の弦を弓でこするか指ではじく) ヴィオラダガンバ → セロ

★J.S.バッハ：無伴奏セロ組曲 全6曲 BWV1007~1012

カザルスによってバッハの死後140年を経て蘇ったセロのバイブル。彼は、それまで誰も見返らなかつたこの曲を12年間の猛練習の後、広く世界に紹介し絶賛を浴びた。

## 6. リコーダー独奏曲 ☆ニコラ・パトリ：デンマーク民謡による変奏曲

リコーダーは、きれいなハーモニーで合奏もできる立派な楽器。ボケ防止にもお勧め。

以上